

今朝も皆さまとともに主を礼拝できますこと感謝します。先週は皆さんに祈っていただいて、宣教区の青年キャンプでの奉仕を無事に終えることができました。皆さまのお祈りに心から感謝いたします。9月も後半を迎え、ようやく暑さも落ち着いてきました。季節の変わり目で体調も崩しやすい時ですが、引き続き皆さまのご健康が守られ、皆さまの恵みと平安がお一人おひとりに豊かにありますようお祈りしています。

エペソ人への手紙の6章をともに読んでいます。悪魔の策略に対する神の武具について教えられてきていますが、ここ数回は特に祈りについて教えられてきました。前は「私のためにも祈ってください」と願うパウロの姿を見ました。前回の19節。

また、私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう、祈ってください。

私のためにも祈ってください。そう言い合うことのできる祈りの交わりの中私たちは生かされていることを教えられました。そして福音の奥義、すなわちイエスさまによって全ての者が一つとされるという恵みを大胆に語るができるよう祈るパウロの姿からも教えられともに考えることができました。今日はそれに続く箇所を見ていきます。

鎖につながれながらも

今朝の箇所も前回と同様パウロが福音を語れるように祈ってくださいと願っている箇所です。特に今日の20節でパウロは自分の状況と使命について語っています。今日の20節。

私はこの福音のために、鎖につながれながらも使節の務めを果たしています。宣べ伝える際、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください。

パウロはまず、自分が福音のために鎖につながれていると語ります。実際パウロはこの時逮捕され、牢屋の中に入れられていたと考えられています。文字通り鎖につながれ、捕えられているパウロ。これまでエペソ人への手紙でパウロは、自分のことを「主にある囚人」と呼んでいました。4章1節。

さて、主にある囚人の私はあなたがたに勧めます。あなたがたは、召されたその召しにふさわしく歩みなさい。

イエスさまを信じ宣べ伝えるゆえに囚人となっていたパウロ。しかしその立場を恥じることなく、福音のために全力を尽くす彼の姿がそこにはあったのでした。むしろパウロは、自分が囚人であること、鎖につながれていることがかえって福音の前進に役立っていると証ししています。同じくパウロの書いたピリピ人への手紙1章12-14節にはこうあります。

さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったことを知ってほしいのです。私がキリストのゆえに投獄されていることが、親衛隊の全員と、ほかのすべての人たちに明らかになり、

兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことで、主にあって確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆にみことばを語るようになりました。

パウロが捕えられたことによって、他の人たちがますます大胆に御言葉を語るようになった。そして18節で彼はこう語ります。

しかし、それが何だというのでしょうか。見せかけであれ、真実であれ、あらゆる仕方でキリストが宣べ伝えられているのですから、私はそのことを喜んでいます。

そうです。これからも喜ぶでしょう。

どんな形であっても福音が前進すること、あらゆる仕方でキリストが宣べ伝えられていること。それをパウロは喜んでしていると告白しています。福音のためであれば、牢屋も鎖も関係ない。キリストが宣べ伝えられること。それが自分の喜びであるとパウロは告白しました。イエス・キリストの福音を宣べ伝えるべく召されそこに命をかけて生きたパウロの姿を聖書は私たちに教えています。鎖につながれながらも、喜びを持って福音宣教に励むパウロの姿を聖書は証するのです。

そしてパウロは福音のために、自分は使節の務めを果たしていると今日の箇所で語ります。鎖につながれながらもパウロがなしていたこと、果たしたいと願っていたこと。それは福音のための使節の務めでした。

私はこの福音のために、鎖につながれながらも使節の務めを果たしています。宣べ伝える際、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください。

「使節の務め」新改訳第3版では大使の役と訳されていました。大使や使節というのはある国やグループを代表して派遣される人のことです。神の国の大使、福音から使節として神さまから自分は人々に遣わされている。神さまの

御心、メッセージを人々に伝えるべく召されている。そのような自分の役割と使命をパウロは自覚していたということです。福音の奥義を人々に伝える使節として自分は生かされている。イエス・キリストにある良き知らせを宣傳伝えるために自分は鎖につながれここにいる。与えられている福音宣教の務めを自覚し喜んで、使節としての務めにパウロは励んでいたのです。

別の箇所でもパウロはこの「使節」という言葉を用いてこんなことを記していました。コリント人への手紙第二5章19-21節。

すなわち、神はキリストにあって、この世をご自分と和解させ、背きの責任を人々に負わせず、和解のことばを私たちに委ねられました。

こういうわけで、神が私たちを通して勤めておられるのですから、私たちはキリストに代わる使節なのです。私たちはキリストに代わって願います。神と和解させていただきなさい。神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方において神の義となるためです。

パウロは私たちはキリストに代わる使節であると、キリストに代わって神との和解を勧める者であると告白していました。神との和解。神さまの愛と赦しを受け入れ神さまと共に生きること。それを伝えるためにパウロは宣教の働きに従事していたのです。この使節としての務め、福音宣教の対象には、自分を牢屋に入れようと企んだユダヤ人や、自分を今鎖につないでいるローマ兵隊たち。そのような人たちも含まれていたことでしょう。自分に関わるすべての人たちが神さまと和解するように、すべての人が福音を受け入れ救われるように。そのことをパウロは願って生きていたのです。

キリストの使節として

私たちもまた、キリストの使節としてそれぞれの地へと遣わされています。神との和解を人々に勧めること、イエスさまの愛を伝えるという働きが私たちには与えられている。そのことを覚えたいと思います。この地にあってキリストの使節の務めを果たすことは、決して容易なことではありません。信仰ゆえに誤解されたり嫌われたりすることがある。文字通り鎖につながれることや、即命を落とさなくてはならないことは今の日本ではないかもしれませんが、多くの苦しみや痛みを通らされることが私たちにはある。そのような苦難が待ち受けているとしても、福音が宣べ伝えられていくこと。私たちの歩みを通して福音が証され、神さまと和解する人がこの地に起こされていくことを私たちは何よりも願う者とされたいと思います。福音が広がること、イエスさまと出会う人が起こされること。それを私たちは何よりの喜びとして生きる者とされたいのです。

そしてキリストの使節として歩む私たちに、ともにおられるイエスさまの恵みと、聖霊の助け・力が約束されています。イエスさまはこう語られました。先主日の招きの言葉で読まれたマタイの福音書10章19-20節。

人々があなたがたを引き渡したとき、何をどう話そうかと心配しなくてもよいのです。話すことは、そのとき与えられるからです。話すのはあなたがたではなく、あなたがたのうちにあって話される、あなたがたの父の御霊です。

これはイエスさまが弟子たちに約束してくださったことばです。もし信仰のゆえに捕まり人々の前で弁明しなくてはいけないような時が来ても、心配しなくて良い。話す言葉はその時与えられる。私たちのうちにおられる父の御霊、聖霊なる神さまが語ってくださるのだとイエスさまは約束されました。

私たちも、人の前でイエスさまのことを語る機会が与えられる。神さまの愛を証しする機会に導かれることがあると思います。そのような時にも恐れることはない。心配しなくて良い。そう御言葉は語っているのです。語るべき言葉を聖霊が与えてくださる。聖霊ご自身が私たちを用いて語ってくださるのだと約束されています。この約束に信頼しつつ、遣わされる地でますます福音を大胆に証する私たちとされていきたいと思うのです。

改めて先週は青年キャンプのご奉仕があり、とても恵みに満ちた時を過ごすことができました。皆さんのお祈りに支えられて、語るべき言葉が与えられて、神さまの恵みを証することができたことを感謝しています。緊張しつつ、青年たちのため語るべき言葉が与えられるようにと祈りつつ準備をし当日のことばを語りました。拙い奉仕であったとは思いますが、その後の分かち合いや個人的に青年たちと交わることを通して、神さまが私を通して語るべき言葉を語ってくださったんだと教えられました。話すのはあなたがたではなく、あなたがたのうちにあって話される、あなたがたの父の御霊です。この御言葉の通りに御霊が私を通して必要な御言葉を青年たちに届けてくださった。そのことを信じ感謝しています。説教や牧師としての務め以外にも、私たちが日々出会う人々との交わりの中で、語るべき言葉を神さまが与えてくださるよう祈り続ける私たちでありたいと願われます。

さらに私たちには、鎖につながれながらもキリストの使節の務めを果たしている人たちのために祈る。そんな務めも与えられています。パウロがエペソの教会の人々に願ったように、私たちも祈りをもって福音宣教に励む人たちを支えることができる。そのような務めに私たちは召されているということも覚えていきたいのです。

私たちが所属する日本同盟基督教団にもそうですし、この国この世界には、苦しみの中、また文字通り鎖につながれながらいのちをかけて福音を伝えている方々がいらっしゃいます。国外に遣わされている宣教師の方々、国内でも開拓伝道に励む方々、困難な状況にある教会や迫害を受けている人たちの存在があります。福音宣教の働きがこの国この世界で今日もなされていること。そこには少なからぬ苦難や痛みを背負いながら仕えている方々がいらっしゃることを私たちは覚えていたいと思うのです。

そして振り返って考えるならば、私たちのためにも福音の使節がいたことを覚えていきたいのです。私たちのため苦しみや痛み、恥をも忍んで福音を伝えてくれた人たちがいたことを私たちは忘れずに覚え感謝する者でありたい。私たちのため私のためにあの人が福音を運んでくれた。勇気を出して教会に誘ってくれた人や、根気強く忍耐をもって御言葉を語り祈ってくれた人がいた。だからこそ私たちは今ここにすることが許されています。そのような人を通して与えられてきた福音の恵みに感謝し、まだイエスさまと出会っていない人たちのため苦難の中でも福音の使節としての務めを果たす私たちでありたい。いのちをかけ福音の宣教に励む方々のことを覚え、精一杯祈り支える私たちと続けてさせていただきたいと願うのです。

私はこの福音のために、鎖につながれながらも使節の務めを果たしています。宣べ伝える際、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください。

今週もまた、福音の使節として、キリストの福音と神との和解を宣べ伝える者として、それぞれの地へと遣わされてまいりましょう。この地に福音が広がり信じる人たちが起こされていくように。神さまの恵みが多くの人たちに伝わっていくように。そのことを心から願い祈りつつ今週も歩んでまいりたいと思います。

お祈りをいたします。

「天のお父さま。みことばをありがとうございます。福音のため、鎖につながれながらも使節の務めを果たしたパウロの姿から、今朝私たちに教えてくださりありがとうございます。いつもともにいてくださるイエスさまの恵みと、聖霊の力によって回りの人たちに、神さまの愛と恵みを語り伝える私たちと今週もどうかならせてください。苦難の中、福音を宣べ伝える務めに励んでいる方々の上に、困難な地にある教会や迫害下にあるキリスト者にあなたの支えと励まし、導きを続けてどうぞお与えてください。あなたの恵みに感謝して、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」